解説シート

学徒動員と学童疎開

学徒動員

戦争が激しくなってくると、働く人が不足したため、中学生以上の生徒は軍隊の工場で働かなければなりませんでした。さらに昭和20（1945）年４月になると、原則として中学校での授業は中止されました。

動員された中学生たちは、空腹や疲労と戦いながら、兵器の製造や検査など、慣れない危険な仕事に取り組んでいました。

呉海軍工廠（呉にあった海軍の工場）でも中学生が働いており、戦争中の空襲や仕事中の事故で犠牲になる人もいました。

学童疎開

空襲が予想されるようになると、都市部に住んでいる子供たちは、空襲の少ない地方へ「疎開」することとなりました。親戚のある子は親戚のところへ「縁故疎開」をし、親戚のない子は学校ごとに先生に連れられて、お寺や旅館に「集団疎開」しました。幼い子供にとって、家族と別れての疎開生活はつらく、苦しいものでした。

共同の宿舎から出勤する女子中学生

集団疎開

呉市海事歴史科学館 大和ミュージアム